

郷土館発

里で嫌われる

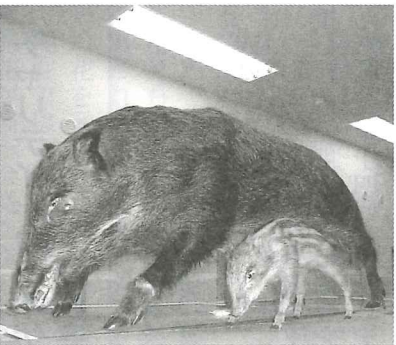
イノシシのお話

郷土館に、都会に住む孫を連れておじいさんが訪れました。目当てはイノシシの親子です。最近よく話題になるイノシシを見せたくて連れてきたようです。郷土館にはイノシシの剥製がいくつもあります。

イノシシの子は「うりぼ瓜坊」といわれ、体全体に野菜のウリのような縞模様があります。

お孫さんは、ウリボウが気に入って「可愛い、可愛い」の連発です。あまりにも気に入った様子に負け、そっと触らせてあげました。手のひらで、そうとなげながら「可愛いね、可愛いね」の繰り返しです。

江戸時代の農民が「この村では鉄砲を二丁持っています。この鉄砲は猪や鹿を撃つためにだけ使います。」と代官所に届けた記録があります。(清水村「鉄砲証文」)



イノシシの親子(奥三河郷土館自然資料室)



「鉄砲証文」 清水村

昔からイノシシは人々を悩ませたようです。

今のイノシシは、車の通りが多い国道のすぐ近くにまで、凶々しく、賑やかに出没します。被害も甚大です。

山に広葉樹が少なくなると、イノシシの餌が少なくなりました。イノシシは、住み家を失い里に下りて来たようです。イノシシも生活しにくくなったのですね。

イノシシが生活しやすい日本は、きつと人間も生活しやすい日本なのだろうと思います。

山に広葉樹の再生を願います。郷土館のイノシシの親子を見てやってください。可愛いものです。

(奥三河郷土館 館長

加藤 紘市)

※町教委発行「暮らしの中の狩りと漁」郷土館にて販売中